

## パリ 2024 パラリンピックに合わせて 「世界のバリアフリー児童図書展」開催

～展示期間中、イベント「視覚障害留学生と一緒に点字に触れてみよう！」も実施～

国際交流基金（JF）は、8月20日から29日まで、本部オフィスにおいて、「世界のバリアフリー児童図書展」を開催します。

「バリアフリー児童図書」とは、特別な配慮を必要とする子どものために制作された図書や、障害のある子ども・若者について描かれている図書です。障害のあるなしにかかわらず、世界中のあらゆる子どもたちが豊かな読書体験を積むことができるよう、バリアフリー図書がより広く認知されるきっかけとなることを願って、パリ 2024 パラリンピック開催に合わせて本展を企画しました。日本国際児童図書評議会（JBBY）と国際視覚障害者援護協会（IAVI）の協力を得て、世界のバリアフリー児童図書と日本のバリアフリー図書を紹介します。会期中の8月27日には、展覧会場内で、「視覚障害留学生と一緒に点字に触れてみよう！」と題したイベントも行います。

併せて、本年2月に好評を博した「世界の子どもの本展」の第二弾として、世界に紹介したい日本の子どもの本とその外国語翻訳版も同時に展示します。

普段目にすることのない外国のバリアフリー絵本に触れ、バリアフリー図書について知り、考え、また世界の子どもたちに読み親しまれている日本の本を手にとってご覧いただける貴重な機会をお楽しみください。

### 記

事業名称：世界のバリアフリー児童図書展

主催：国際交流基金(JF)

開催日程：【展示】 2024年8月20日（火）～29日（木）（土・日曜日休） 午前10時～午後6時

【イベント】 2024年8月27日（火） 午後2時～4時（随時）※いずれも予約不要・入場無料

会場：国際交流基金 本部オフィス 1階ロビー「けやき」（東京都新宿区四谷1-6-4）

協力：日本国際児童図書評議会（JBBY）、国際視覚障害者援護協会（IAVI）

主な内容：【展示】① 世界のバリアフリー児童図書：国際児童図書評議会（IBBY）が2023年に選出した、世界各国の優れたバリアフリー児童図書（計40点）  
② 日本のバリアフリー図書：文字・活字文化推進機構「読書バリアフリー体験セット」を含む、日本で出版されたバリアフリー図書（計27点）  
③ 読み継がれてほしい日本の子どもの本とその外国語翻訳版：JF 翻訳推薦著作リストに掲載された、日本のロングセラー児童図書と、世界で出版されたその外国語翻訳版（計39点）  
【イベント】日本語と外国語の点字の仕組みについてお話を聞きながら、自分の名前や好きな言葉を透明なシールに点字で打ってもらい、点字しおりを作ります。講師はIAVI 留学生と元留学生です。しおりはお持ち帰りになれます。

### この件に関するお問い合わせ：

国際交流基金 広報部（担当：熊倉、小堤）

Tel: 03-5369-6075 / Fax: 03-5369-6044

E-mail: [press@jpf.go.jp](mailto:press@jpf.go.jp)



「世界のバリアフリー児童図書展」ポスター

### JF 翻訳推薦著作リスト児童書版 “Lifelong Favorites” について

JF では 2021 年に、日本国際児童図書評議会（JBBY）との共催により、海外での翻訳出版にお薦めの日本の子どもの図書、59 冊を選びました。日本の子どもたちが誰でも知っている昔話、子どもたちに長く支持され今でも多くの読者をもつロングセラー、それから 2000 年以降出版され、今後ロングセラーになることが期待される図書を集めて、“Lifelong Favorites—Selections from the Bookshelves of Young Readers in Japan”（「日本の子どもたちの本棚から」）としてリストにまとめ、海外の翻訳者や出版社の方々へ向けて紹介しています。

<https://www.worthsharing.jpj.go.jp/lifelong-favorites/>

2024 年 4 月には、世界の児童書関係者が集うポローニャ国際児童図書展（イタリア）に JF と JBBY の共同ブースを出展し、「読み継がれてきた本と読み継がれてほしい本」として、59 冊のうち 10 冊を紹介しました。

今回は、“Lifelong Favorites” 掲載作品のうち、ポローニャ国際児童図書展に出展した 10 点とバリアフリー図書 1 点の計 11 点に、それらの各国語への翻訳図書計 16 言語の 28 点を合わせ、総計 39 点の子どもの本を展示します。



### この件に関するお問い合わせ：

国際交流基金 広報部（担当：熊倉、小堤）

Tel: 03-5369-6075 / Fax: 03-5369-6044

E-mail: [press@jpf.go.jp](mailto:press@jpf.go.jp)

**協力団体について****一般社団法人 日本国際児童図書評議会 (JBBY)**

JBBYは、国際児童図書評議会 (IBBY) の「子どもの本を通して国際理解を」という理念に共鳴して1974年に設立されました。以来、会員のボランティア精神に支えられながら、IBBYの日本支部としての活動に加え、日本と海外の子どもたちを本で結ぶ多様な事業を行っています。

これまで国際交流基金はJBBYとの共催により、翻訳推薦著作リスト児童書版“Lifelong Favorites”の制作（2021～2022年）、ポーロニャ国際児童図書展共同ブース出展（2024年）等により、日本の子どもの本を世界に紹介してきました。

「子どもの本を通して国際理解を進める」、「どんな場所にいる子どもたちも、文学的、美術的に質の高い本に巡りあえるようにする」、「世界中、殊に発展途上国において、優れた子どもの本の出版や普及を奨励する」、「子どもと子どもの本に関わる人々を支援し、その能力を高める機会を提供する」、「児童文学関連の学術研究、調査活動を促進する」、「子どもの権利条約に則って、子どもの権利を守る」の6つが、JBBYが掲げるミッションです。

バリアフリー図書については、2年に一度、IBBYに加盟する世界中の国々から推薦図書を募った上で、特に優れた作品をIBBYが選んでカタログにまとめています。JBBYは2003年以降、このIBBYが選定した図書を取り寄せ、国内の図書館や学校などで巡回展示して紹介しています。本展で今回ご紹介する「①世界のバリアフリー図書」、22か国15言語の計40点は、2023年のIBBY選定図書です。

**社会福祉法人 国際視覚障害者援護協会 (IAVI)**

IAVIは、就学環境や就労の機会に恵まれない、アジアをはじめとする発展途上国の視覚障害のある若者たちを対象に、日本の盲学校への留学支援を行う団体です。IAVIを通じて来日する留学生たちは、3年間、経済的自立に役立つ職能としての理療（あん摩・マッサージ・指圧、鍼、灸）施術技能やIT技術を習得するとともに、体験を通して日本の福祉の現状などを学びます。各留学生が自国に戻った後、将来にわたり日本での体験を活かして、障害者の自立・社会参加と福祉向上、障害者に対する理解増進のために尽力する「視覚障害者のリーダー」となってくれることを期待しています。

日本語・点字学習、白杖歩行訓練、泊まり込み生活訓練といった、盲学校入学に先立つ半年間の予備研修の提供、在留資格変更・延長など生活上の種々の手続き、引率、長期休暇中の宿泊場所の提供、新年会やお祝い会、地域交流会など各種行事の計画、さらには元留学生や留学生同士の交流の機会づくり・・・と、IAVIは、留学生たちの日本での生活が順調に進み、楽しく、実り多いものとなるよう、様々な下支えを地道に継続して行っています。

1971年の団体創設以来、19か国・地域から89名もの留学生を日本に受け入れ、世界の視覚障害者に未来を切り拓ききっかけを提供し続けてきた功績が高く評価され、2023年度国際交流基金地球市民賞を受賞しました。

今回の展覧会開催にあたっては、IAVIから多くの助言とお力添えをいただきました。8月27日のイベント「視覚障害留学生と一緒に点字に触れてみよう！」では、IAVI留学生と元留学生の方々に講師をお願いしています。

**この件に関するお問い合わせ：**

国際交流基金 広報部（担当：熊倉、小堤）

Tel: 03-5369-6075 / Fax: 03-5369-6044

E-mail: [press@jpf.go.jp](mailto:press@jpf.go.jp)